

當日禁止の旗(黒地に赤色にて染抜きて物の破裂を思出せるもの)を差出したりとかは警察官は該旗の撤去を命じたりしこれを肯せず遂に山競合を初め純向上會幹部たる八木信一は低頭平身了解を得ることに務めたるも該會該旗を撤去した。その為の四十五分を費し数名の旗束者を出した。行列の後部隊に於ては革命歌、赤旗の歌等禁止の歌を合唱する者もあつた。別は旗束された者も見受けあつた。河村改佐(純向上會)の總指揮者となつた白樺姿は一役に人目を引いた。

而して警察官は後方来る可き総同盟のおつて騒擾を惹起しては一大事と到着地兵に速かに達せしめんことに苦心して居た。

(三) 日本労働総同盟のメーデー

一、中島集令地の模様。

日本労働組合聯合の行列の後部隊は天場橋を<sup>降り</sup>終るや(午後一時)堀割以西に於て盛んに氣勢を<sup>示</sup>を挙げて居た。総同盟側は大阪橋樑労働組合、大阪電氣労働組合、電線工組合、大阪印刷労働組合、大阪送配労働組合、伸鋼工組合、北大阪染色労働組合、大阪合同労働、帽子、西部交通労働組合、莫大十工組合、全日本煙草